

# 「はまかぜ」(金沢版)

平成 26 年 4 月 11 日号

連載 第52回

横浜市議員 おばた正雄氏 横浜を語る



ヨコハマ会 市議員団  
子どもにツケをまわさない!  
“横浜から日本を創る”

横浜市議 おばた正雄氏

## 〈プロフィール〉

金沢区生れ。旧民社党政策審議会  
で各種政策を研修。昭和 54 年よ  
り横浜市議。現在 9 期。ヨコハマ  
会市議団代表。一貫して教育・行  
財政改に取組。6 年前民主党離党。  
現在、無所属。憲法改正と日本の  
安全に責任を持つ保守新党を模索  
中。神奈川の教育を良くする会会  
員。日本会議会員。自衛隊募集相  
談員。各スポーツ・文化団体顧問。

## 〈ご相談・ご連絡先〉

事務所：金沢区谷津町 332  
TEL：045 - 783 - 7869  
FAX：045 - 786 - 5315  
✉ obatamasao@gmail.com

## 予算市会報告③ 市の借入金残高、市税収入の約7年分 既存の公・民施設の積極活用を提言!

横浜市の平成

横浜市の予算は

26 年度の予算 一般会計 1 兆 4 1 8  
市会は、3 月 25 2 億円(前年度比 1.  
日に予算案と関 4 % 増)。特別会計、  
連議案を可決成 公営企業会計を含めた  
立し、閉会しま 総計は 3 兆 5 1 5.3 億  
した。新年度の 円(同 7.5 % 増)と  
事業が始まり、 県の予算(総計 3 兆 1  
金沢区では新区 6 5 0 億円)より大規  
庁舎の建設工事 模を予算です。  
が平成 28 年 2 月竣工予定で、  
始まりました。

横浜市の事業は

子育て、教育、女性、  
若者・シニアの活動の

場の創出、耐震・震災  
対策、高齢者、障害児、  
者、健康・保健、セー  
フティネット、医療、  
市民協働、まちづくり、  
中小企業・商店街への  
支援、国際都市、文化  
芸術・観光・MICE、  
都心・郊外部の整備、  
都市基盤整備、環境未  
来都市、地球温暖化対  
策、環境施策、ごみの  
減量化・リサイクル事

業など市民活動全般に  
わたる事業に取り組ん  
でいます。  
特に、日本の最大  
の課題が少子化対策  
であり、本市では、一待  
機児童ゼロ」施策を継  
続するため、保育所整  
備費用を前年度比で倍  
増し、防災対策として  
学校や橋梁など公共イ  
ンフラの耐震補強を充  
実させた結果、市債発  
行額は 17.6 % 増にな  
り国の経済対策を踏ま  
えた予算編成です。

しかし、最大の問  
題は、国の財政状況が  
大変厳しく、国の国債  
残高は GDP の 2 倍以  
上の 1100 兆円に達  
し、国民 1 人当たりの  
借金は 8 百万円になっ  
ており、急速に進む少  
子高齢化と人口減少の  
中で、国も横浜市も行  
財政改革の断行を迫ら  
れています。

## 市の借入金残高

今年の 3 月末の合計  
で、また 4 兆 8 2 3 1  
億円あり、これに対し  
25 年度の市税収入は  
7 0 8 2 億円で、本市  
の借入金(市税収入の  
約 7 年分)あります。

【市税収入内訳】市民  
税(個人・法人)、固  
定資産税、軽自動車税  
市たばこ税、事業所税  
都市計画税など】

## 質問の主旨

私は、市会本会議や  
特別委員会での総合審  
査等で林市長や各局長  
に徹底的な行財政改革  
と子ども・子育て支援  
策などについて質問。

特に、津波対策な  
どは既存の公・民の施設  
を利・活用すれば、借  
金としての施設建設は  
疑問です。また、子ど

ものは地域の協力を得て学  
校施設の活用で子ども  
から高齢者までの交流  
ができます。地域の学  
校のグラウンド、体育館  
や音楽教室、図書室、  
調理室、工作室等を利  
活用すれば市民活動は  
可能です。市長はじめ  
幹部職員の財政問題の  
危機意識が希薄ではな  
いかと感じています。